号外
東京かわら版
落語協会感謝祭特別版
006
平成19年
8月5日発行
（限定1000部）
発行：東京かわら版
〒104-0045
東京都中央区
築地1-9-1
井上ビルヂング4F
電話番號
03-3542-3610
電信番號
03-3542-3611
発行人：井上和明
編集人：佐藤友美
編集：田谷悠紀
岸川明広
編集補助：井上健司

俺たちにも言わせろ!!

落語協会歴代座談会 in 極楽亭

とある寄席の休み、四代目柳家小さん、八代目桂文治、八代目桂文楽、五代目古今亭志ん生、六代目三遊亭円生、五代目柳家小さんの歴代落語協会会長を務めた五名は、天国は極楽亭に集まった。今回は、「落語協会」が主催している「円朝まつり」が「落語協会感謝祭」に名称を変わるのをうけ、緊急の座談会を開くことに。さてその内容は？

四代目柳家小さん（以降は四代目小さん）「今日、お前さん方に集まってもらったのは他でもねえんだ。実はな、円朝まつりが今度、落語協会感謝祭って名前が変わるってんだ。そこでだ、落語協会の歴代会長を務めたお前さん方に、あの世から現代の若い噺家たちやお客様方になんか一言言ってもらいたいと、こういうわけなんだ。文治さんからひとつ、何か一言言ってもらおうじゃねえか」

四代目柳家小さん

八代目桂文治（以降は文治）「若い人たちが色々考えて面白いことをやるのは、結構なことですなぁ」

八代目桂文治

八代目桂文楽（以降は文楽）「噺家は上手も下手もなかりけり行くさきざきの水に合わねば、と申します通り、お客様あっての商売でございます。お客様に感謝する祭りをやるなんざぁ、実にべけんやでございます」

五代目古今亭志ん生（以降は志ん生）「祭りは結構ですな。呑めますから」

八代目桂文楽

四代目小さん「お前さんはなにかっていうと酒の話だねえ」

志ん生「そんなことはございませんよ。私はね、酒のない国に行きたいくらいだ。三日目には帰ってきますけどね」

四代目小さん「しょうがねえなぁ。円生さんは、円朝師匠の直系だから、円朝まつりの名前が変わるってえのは、何か言いたいこともあるんじゃないかい」

六代目三遊亭円生（以降は円生）「えー、円朝まつりの名前を変えるなんぞは、実にけしからん話で。そういうことってえのは、もっとよく話し合う必要がある。会議の時間を延長（円朝）して」

四代目小さん「なんだい、駄洒落はいけませんよ」

円生「てへへ。まぁ、若いモンに円朝師匠を敬う気持ちがあれば、名前なんぞは変わったって、別にどうってことはない」

四代目小さん「栗之助、お前はどう思う。一番会長の任期が長えんだ。何か一言ねえか」

五代目古今亭志ん生

五代目柳家小さん（以降は五代目小さん）「えー、円朝師匠のお墓のございます全生庵には、山岡鉄舟先生のお墓もございます。どうかお客様も、円朝師匠のお墓だけでなく鉄舟先生のお墓にも是非お線香を上げていただきたい」

四代目小さん「まぁ、鉄舟先生もお偉い方だからなぁ」

五代目小さん「鉄舟先生は北辰一刀流の達人ですから。私の一番尊敬する方です」

円生「小さんさんは円朝師匠よりも鉄舟先生を尊敬してるってんだから。実にどうも……てへへ」

四代目小さん「まぁ、なんだ。お客様に感謝しつつ、円朝師匠にも感謝する祭りになるよう頑張ってもらいてえもんだ。時に、どうだい、最近の落語については？」

文楽「寄席に随分お客さんが来てくださってるそうですな」

志ん生「落語は面白いんだ。色々な人に知ってもらって、そういう人たちが寄席に来てくれる、いいことですな」

六代目三遊亭円生

円生「面白いのもようがすが、古典を次の世代にしっかりと受け継いでゆくのも噺家の大切な仕事の一つでして」

五代目小さん「そういうところは、現代の若い奴らは、きちんとした考え方を持ってやってるようですな」

文治「現代は新幹線なんてものが出来てるそうで、東西の交流が活発なのは羨ましいことですな。私らの頃はもう、急行列車にゆられて、何時間も掛からなきゃ上方へは行かれませんでしたからな」

文楽「私が前座の頃なんぞは、横浜から東京に来るのも歩いて来たもんで随分時間が掛かったものですな」

四代目小さん「文楽さんの得意な円朝師匠のネタ、『心眼』だねえ」

志ん生「上野から麻布まで歩いて行くのも随分くたびれた。私も……」

四代目小さん「『黄金餅』かい？志ん生さんの十八番だね」

円生「私なんか雪の中をさんざん歩いて道に迷って」

四代目小さん「『鰍沢』だね？円生さんの得意ネタ、これも円朝師匠の作だ。円朝師匠は随分新作をこしらえてるけど、現代の噺家にも新作で人気の者も多いそうだね」

五代目小さん「今の会長の馬風も、会長への道なんて新作やってましたよ。私なんか、何度あいつに殺されたか」

五代目柳家小さん

円生「新作なら、うちの円窓や円丈も負けやしません」

四代目小さん「古典は古典でしっかり継承した上で、どんどん新しい噺もこしらえていかなくちゃいけないねえ」

文楽「それにしましても、円朝忌の頃から思っておりましたが、いつもお天気がよくお暑うございますな」

志ん生「暑い時はビールでキューッと、なんてえのがいいねえ」

文楽「肴はやはり枝豆でございますな」

円生「豆はようがす」

五代目小さん「へへへ。暑い時こそ、熱いものをいただいて暑気払い、ってんですな。あつあつのおまんまに永谷園の味噌汁で」

四代目小さん「お前さんたち、コマーシャルはおよしなさいよ。まぁ、感謝祭の当日は、噺家たちが冷えたビールやらかき氷や冷凍みかんなんかを売るから、楽しみにしてろい」

五代目小さん「師匠、今年も暑くなると決めてますねえ」

四代目小さん「そうじゃねえか。暑くなくて、なんの円朝まつり、いやさ、落語協会感謝祭よ」

志ん生「あんまり暑いんで、座り小便して馬鹿んなるな」

四代目小さん「おいおい、なんてことを言うんだ。ちゃんとトイレも用意してある」

文治「というわけで、落語協会感謝祭」

文楽「奥にキラリと光るもののある祭でございます」

志ん生「これに来れば、しめこのウサギ」

円生「実にどうも、てへへ」

五代目小さん「落語協会噺家一同心をこめておもてなしいたしますので」

四代目小さん「よろしく、お楽しみくださいませ」

（作・構成＝稲田和浩）

参考文献

落語家辞典（諸芸懇話会＋大阪芸能懇話会著／平凡社）

食べる落語（稲田和浩／教育評論社）

＜参加者プロフィール＞

●四代目柳家小さん（1888～1947）

1906年三代目小さんに入門。28年四代目襲名。終戦後、**落語協会初代会長に就任する**も、鈴本の高座で倒れ逝去。「かぼちゃ屋」「二十四孝」などを得意とする他、新作落語の創作にも力を入れていた。

●八代目桂文治（1883～1955）

上方で修業したのち、1922年桂文治を襲名。**47年四代目小さんの急死で落語協会会長となる**。上方仕込みの「ざる屋」、芝居噺「将門」、上方、江戸言葉を使い分ける「祇園会」などが得意ネタ。

●八代目桂文楽（1892～1971）

1908年初代桂小南に入門。20年八代目桂文楽襲名。**55年～57年、63年～65年の二期落語協会会長を務める**。ネタ数は少ないが、洗練された至極の芸を聞かせ、戦後落語黄金時代の一翼を担った名人。「明烏」「愛宕山」「鰻の幇間」などが得意ネタ。

●五代目古今亭志ん生（1890～1973）

なめくじの出るような長屋に住んだり、借金取りをごまかすため何度も改名するような極貧生活を経て、39年五代目古今亭志ん生襲名。**57年～63年落語協会会長を務める**。天性の面白さが言葉に出来ない魅力の名人芸。「火焔太鼓」「黄金餅」「かわりめ」などが得意ネタだが、ネタ数はとにかく多い。

●六代目三遊亭円生（1900～79）

子供の頃より豆義太夫として寄席の高座に出演、09年落語家に転向。42年六代目円生を襲名。**65年～72年落語協会会長を務める**。78年落語協会を脱退し三遊協会を設立するも翌年逝去。ネタ数の多さ、緻密な人物描写など卓越した技は他の追随を許さぬ昭和の名人であった。

●五代目柳家小さん（1915～2002）

1933年四代目小さんに入門。50年五代目襲名。**72年～96年落語協会を務める**。95年落語界初の重要無形文化財となる。「禁酒番屋」「狸」「時そば」などが得意ネタ。登場人物の了見で語る柳家の王道を行く落語家、丸い顔で多くの落語ファンから親しまれていた。趣味は剣道で北辰一刀流七段。

東京かわら版出店「本屋高尾」取扱い販売物一覧

※料金のみは税込

●雑誌

・「東京かわら版 八月号」 四二〇円
・「東京かわら版 四月号」 六三〇円
・寄席演芸年鑑二〇〇六年版 一六〇〇円
顔写真入り寄席芸人名鑑
「東京人九月号 特集・三遊亭円朝」（都市出版社）九〇〇円

●書籍

〈うなぎ書房〉
「噺家渡世」入船亭扇橋（サイン本）二二〇〇円
「ぜいたくな落語家」柳家小さん（サイン本）二〇〇〇円
「背中の志ん生」古今亭円菊（サイン本）一八九〇円
「ヨイショ志ん駒一代」古今亭志ん駒（サイン本）二二〇〇円
「寄席おもしろ帖」長井好弘・林家正楽 一六八〇円
「寄席おもしろ帖2 おかわりッ」長井好弘・林家正楽（サイン本） 一六八〇円
「志ん生を撮った」金子桂三 二二〇〇円
「木久蔵一代 バカの中身」林家木久蔵（サイン本）一六八〇円

〈教育評論社〉
「木久蔵流 がんばらない子育て」林家木久翁 林家木久蔵
「食べる落語 いろはうまいもんずくし」稲田和浩
各一二〇〇円＋税

「落語みくじ」を引こう！

毎年恒例となった「落語みくじ」。落語の文句にのせてあなたの運勢をズバリいうわよ。オーラも見える見える。これで一回百円。

夏押忍！意地！

祭に出かけると、人混みだし、盛り上がっている通りを一人歩いているとよけいに寂しいし、ばったり久しぶりに知人にあってどうしていいかわからなくなるし、この日ばかりは、何でも許されると思って羽目外す大人がいるし・・・・。でもそれが思い出になることを最近知った。

林家彦いち

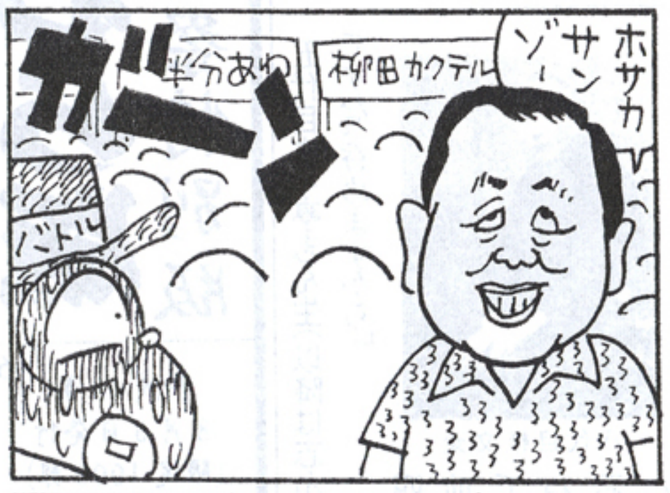
目をつぶれば脳裏に甦るあの祭りの思い出〜連載陣篇〜

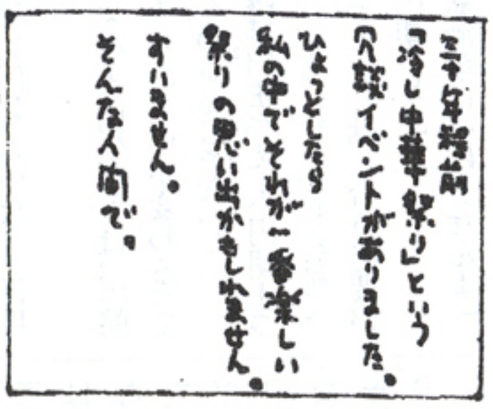
三遊亭白鳥

目をつぶれば脳裏に甦るあの祭りの思い出〜連載陣篇〜

7、8才くらいまで、子供用のハッピを着て、鼻に御白粉を引いてもらっていました。あの頃の思い出はやはり、強烈です。

夢月亭清麿





村松利史

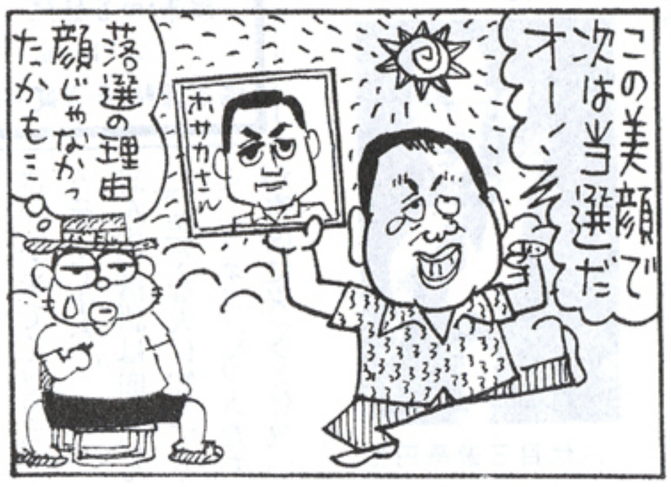
福岡生まれのわたしにとって、祭りは「どんたく」だったり「博多山笠」だったりする。だがそれは見物客としての思い出。ほんとうに懐しいのは自分が準備し運営した学校の文化祭だ。円朝記念のこのお祭りは、落語家たちが企画、準備、運営するのが売り物。落語家たちの思い出を、われわれも共有できるだろう。

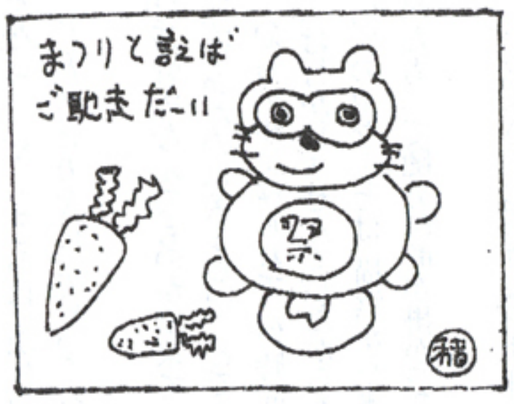
寺脇研

生まれて初めてひとだまを見たのが祭りの夜でした。

夕暮れを歩く祖母に告げたところ、「鬼火だ、狐火だ」と言うので「ひと」と「鬼」と「狐」は、そんなに変わらないものだと思いました。

イタクラヨシコ





稲田和浩

2007' 8月5日
円朝記念
一期一会
落語 横井洋司

横井洋司

ペンギンおとこ
ビリー高野の今日の二句
（句誌『俳人同様』主宰）

円朝師匠
明治の御代なら
新作派の超人気者

お菊さん
消えたお皿は
刈豆屋の善六さんに
探してもらおう

告白
妄想
小説

だって…スキなんだもん！

安藤　千代女

第五回　大胆すぎるビキニを選んだ意味
がわかるかしら…の巻

〈前回までのあらすじ〉
『東京かわら版』を隅から隅まで愛読する普通の女子大生・安藤千代女は落語家・二遊亭扇楽に愛の告白をされ、心は千々に乱れる…

千代女は動揺していた。というかマジ困っていた。扇楽に告られたことよりも何よりも、最近の落語ブームについてだ。最近、チケットを取るのがガゼン難しくなった。昔は当日ふらっと行っても大概の落語会は入れたのに。私がこっそり秘かに愛読している『東京かわら版』もなんだかあちこちで目にするようになった。なんだか落語、メジャーな娯楽になってない？限られ、選ばれし者のオツで粋な趣味じゃなかったの？ちょっと千代女的にはカナリさみしい…。

定期購読している『東京かわら版』が今日送られてきた。今月はちょっと早く届いた（※1）、うれしい！「うっそ、ブ厚くなってるジャン！」叫ぶ千代女。『東京かわら版』になんと背表紙ができた。字が大きくなって、見やすくなってるぅ〜！寄席案内のページのレイアウトも変わって…なんだかすごい。『東京かわら版』じゃないみたい。

封を切る。トクントクン…高まる胸の鼓動。

ずっと思ってた…なんで…「巻頭エッセイ」じゃなくて「巻頭エセー」なの？（※2）

どうして演芸ブックレビューは税込と税別の表記が混ざってるの？（※3）

どうして巻末の落語会情報は「宿屋の仇討ち」と「宿屋の仇討」の表記があるの？（※4）

扇楽さんが出ている落語会と寄席をチェック。あ・今月は索引が二行になってる！忙しそう…これじゃあんまり千代女とデイトできないなぁ〜キャハッ♡

今日は「扇楽勉強会ロード・トゥ・すみれ海産」に行くんだぁ〜、何着ようかな、奮発して買ったキャシャレルの水色にえんじの刺繍の入ったシフォンワンピに、割とハードめのブレスレットとピアスをあわせてミスマッチ感覚をねらってみる。サンダルは誕生日にパパとママから買ってもらった紺色のジミーチュウ。ビジューがリュクスな雰囲気を醸し出してるの！華奢ですごーく綺麗なんだぁ。バッグはミナ・ペルフォネン。う〜ん、可愛い過ぎ！えっとやっと着るものが決まった、次はお化粧開始。デジャヴファイバーウイングより、やっぱりランコムのエクステンシルよね、マスカラは。などと思いつつ、ワトウサとケサパサはやっぱり発色がいいわぁ〜とか思いながら。ウン、今日も千代女完璧！

（来年の号外へ続くかは未定）

（※1）土日の関係で発送日が異なるため。ちなみに発行日は28日だが、定期購読者には真っ先にお手元に届くように手配（送料は弊社負担）

（※2）編集人・佐藤が「エッセイ」という牧歌的な表記を嫌ったため。「文學界」などの文芸誌の表記にならった

（※3）現物の価格表記にならうことを原則としている

（※4）いただいた情報ソースにならうことを原則としている

編集後記

たや　そこは切り張りにすれば。
キシカワ　はい（チョキチョキ、ペタペタ）。
タケシ　写真あがりました。
キシカワ　おーサンキュー。
さとう　（ドア音・ガチャ）ふう。ただいま。
キシカワ　打ち合せ、お疲れ様です。
たや　（時計をチラッ）あ、さとうさん。早く早く。
さとう　はいはい。
タケシ　お疲れさまです。
みんな　お疲れさま。
さとう・たや。　お疲れー
キシカワ　お疲れさまです。ああああーショウセッ…うっ、身内にも原稿で悩まされるとは（泣）これ以上、登場人物もいないし作業するか。えーアレがオちたらコウだろ、来たら無視できねえしな。でも来る可能性は…うーん。とりあえず、チョキチョキ、ペタペタ…うおー、サイズが違った!?チョキ…曲がった!?
キッコロ　アタシモテツダウヨ
モリゾー　ワシモテツダウゾ
キシカワ　今年も編集後記に登場だね。
キッコロ・モリゾー・キシカワ　チョキチョキ、ペタペタ、カタカタ。
キシカワ　器用だね君たち。来年は全部ヨロシクね。

寄席演芸ファン必携
東京かわら版

毎月28日発売
一部420円

※定期購読のお勧め
住所・お名前・希望開始月を明記の上、郵便振替又は切手でご送金下さい。（一年分五〇四〇円、送料当社負担）
●送り先・お問い合せ先はこちら
〒104-0045 中央区築地1-9-1
井上ビルヂング4F
Tel.03-3542-3610
郵便振替口座番号
00190-6-194856（有）東京かわら版
※ホームページ
「東京かわら版ネット」
http://www.tokyo-kawaraban.net/

東京かわら版400号記念落語会
平成19年10月20日（土）12時半開場 13時開演
有楽町・よみうりホール　全席指定4200円
柳家小三治
三遊亭白鳥
〈東京かわら版にまつわる三題噺〉
柳家三三
神田ひまわり
〈「東京かわら版物語」（作・稲田和浩）〉
三遊亭きつつき

チケットのお求めは…
ご予約・お問い合わせ
Tel.03-5785-0380夢空間
未就学児の入場はご遠慮下さい
チケットぴあ、イープラスでも発売中